



原小だより

～つよく 正しく 朗らかに～

3月号
令和8年(2026年)
2月19日
宇部市立原小学校



リーダーの姿

校長 早川 真司

暦の上では春。様々なつぼみが膨らみ始め季節の移り変わりを教えてください。

さて、現在、ミラノ・コルティナオリンピックパラリンピックが開催されています。今朝はフィギュアスケートペアで三浦璃来、木原龍一組が大逆転の金メダルを取ったとのこと。努力が報われる瞬間に立ち会うのは、本当に感動するものですね。今後の熱戦も期待しています。

オリンピックと言えば、様々な名場面が思い出されます。選手の活躍ももちろんですが、校長となった今、監督などのリーダーやスタッフの姿も興味深く見るようになりました。

さて、このリーダーの姿、ある研究によれば次の3つのパターンがあるそうです。代表的なリーダー像とともに、少し考えてみましょう。

- 第1のリーダー・・・支配的リーダー
- 第2のリーダー・・・指導型リーダー
- 第3のリーダー・・・奉仕型リーダー

第1のリーダーは、例えるならば昭和のリーダーと言えるかもしれません。高い目標を定め、強い言葉や鍛え上げることによってチームの力を高めていく。成功するためには、トップダウン的な組織の力や指導者の大きなカリスマが必要となります。

第2のリーダーは、チームとよく相談し、協議結果に基づいて目標を設定し、やる気が起きるような働きかけをすることにより、自信に満ちた組織をつくりあげます。命令や指示ではなく指導をもとにバランスよくチームの力を高めていきます。

第3のリーダーは、チームに奉仕するリーダーの姿です。成果を押しつけるリーダーではなく、単なる優しいリーダーでもなく、ボトムアップを大切にし、チームの声を取り上げ、自らは組織の人員が動きやすい環境を整えていくものです。

かつては、第1のリーダーが多かったように思います。「やれといたらやれ！」と強烈な練習などの指示を出す。それでも、強烈なカリスマがあるから、選手は指導者について行く。リーダーは試合まで優しい言葉はかけません。そして試合が終わったら、「よくついてきてくれた。」「リーダーを信じていたから辛い練習も耐えることができた。」と互いを賞賛する姿を見てきました。しかし、この背景には体や心を壊してしまう選手が多くいたことも事実でしょう。

学校も、かつては先生が絶対的存在でした。しかし、今は、子どもに寄り添い、指導ではなく支援する場面が多くなっています。お互いが人として尊敬し成長し合える関係を学校経営の根幹とし、今年度最後の一か月も「つよく 正しく 朗らかに



に」生きる子どもの育成に励んでまいりたいと思います。